



平成30年度日本財団助成事業
ケアポート連携による高齢者ケアの推進
スリーポート事業報告会
(スリーポートゆめ・ひと・つながり塾)

2018.12.3

ケアポートみまき ふれあいホール



社会福祉法人 みまき福祉会

長野県佐田町下0番地1
電話 0268-61-6001

※、お問い合わせはこちらまでお願いいたします。

これからのケアポートブランドづくりに向けて
スリーポート事業報告会

日本財団助成事業
平成30年度 ケアポート連携による高齢者ケアの推進
スリーポートゆめ・ひと・つながり塾

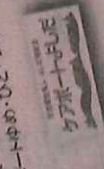


- 開催日時：平成30年9月9日(日) 13時30分開会
- 開催場所：ケアポート在川デイサービスセンター
(岡山県笠岡市庄川町並木字松原38-1)

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

スリーポート事業報告会

日本財団助成事業
平成30年度 ケアポート連携による高齢者ケアの推進
スリーポートゆめ・ひと・つながり塾



- 平成30年 7月21日(土) 13時30分～16時30分 飯沼町並木字松原38-1
- 開催場所：ケアポートゆめ ふれあいホール
- 開催時間：TEL.0854-75-0345

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

平成 30 年度日本財団助成事業

ケアポート連携による高齢者ケアの推進

スリーポート事業報告会

(スリーポートゆめ・ひと・つながり塾)

2018.12.3

ケアポートみまき ふれあいホール



ケアポート庄川



社会福祉法人 みまき福祉会

長野県東御市布下 6 番地 1

電話 0268-61-6001

本日は、お忙しいところご参加下さいましてありがとうございます。

スリーポート事業報告会（みまき）

日本財団助成事業

事業名 平成30年度 ケアポート連携による高齢者ケアの推進

スリーポート ゆめ・ひと・つながり塾



THE NIPPON
FOUNDATION

For Social Innovation



ケアポート庄川



社会福祉法人 よしだ福祉会

ケアポートよしだ



○ 平成30年12月3日（月）14時00分～17時20分 <開催場所：ケアポートみまき>

○ 目的

開かれた福祉施設づくり・地域貢献活動を推めるため、スリーポート連携事業での活動内容や取り組み、事業成果等を報告します。発表を通して学習を深めるとともに職員が共通の認識を持ちながら事業推進していきます。地域の方や関連事業所の皆様にもご参加頂き、ご意見やご要望を今後の活動にいかしていきたいと思ひます。

○ 参加対象

市民 ボランティアグループ 福祉施設関連事業所 ご利用者 ご家族 連携法人
日本財団関係者 行政関係者 スリーポート法人他

○ 報告会スケジュール

内容	時間配分	スケジュール	発表事業所	備考
開会	(2分)	14:00~14:02		進行ニスリーポート中堅研修参加者
開会挨拶	(8分)	14:02~14:10	みまき福祉会 理事長 倉沢隆平	
日本財団挨拶	(8分)	14:10~14:18	日本財団 理事長 尾形武寿 様	
事業評価報告	(10分)	14:18~14:28	公共価値創造研究所 代表 岩渕祐二 様	
会場準備	(2分)	14:28~14:30		みまき（担当者）
報告会	(15分)	14:30~14:45	人材育成分科会	みまき（青木豊英、宮沢洋平）
	(15分)	14:45~15:00	リハビリ健康づくり分科会	みまき（大塩琢也）
	(15分)	15:00~15:15	ボランティア分科会	みまき（西沢唯治、傳田成子）
	(10分)	15:15~15:25	質疑応答	
	(15分)	15:25~15:40	休憩／体操	みまき（温泉アクティブセンター）
	(30分)	15:40~16:10	地域生活支援分科会 朗読劇「遺したい 想い」	みまき（佐藤夏美、武田加代子）
	(5分)	16:10~16:15	質疑応答	
	(10分)	16:15~16:25	みまき福祉会のこれからの取り組み	みまき（特養主任 丸山明日香）
演劇	(30分)	16:25~16:55	「日々、是、甘露なり」	みまき（ケアポート劇団）
まとめ	(10分)	16:55~17:05	公共価値創造研究所 代表 岩渕祐二 様	
講評	(10分)	17:05~17:15	東京健康リハビリテーション総合研究所長 東京大学名誉教授 武藤 芳照 様	
閉会	(5分)	17:15~17:20	アンケート記入	

○ 終了後、17時45分より「懇親会」を開催いたします。

平成30年度日本財団助成事業


スリーポート事業報告会



ケアポート連携による高齢者ケアの推進
(スリーポートゆめ・ひと・つながり塾)

資料目次

事業報告評価	公共価値創造研究所 代表 岩瀬 祐二 様	2	
事業報告	青木豊英主任 宮沢洋平リーダー	人材育成分科会	7
	大塩琢也支配人	リハビリ健康づくり分科会	16
	(福)庄川福祉会様 西沢唯治センター長 傳田成子	ボランティア分科会	20
	(福)よしだ福祉会様 佐藤夏美部長 武田加代子リーダー	地域生活支援分科会	28
	丸山明日香主任	みまき福祉会のこれからの取り組み	35
まとめ	公共価値創造研究所 代表 岩瀬 祐二 様	37	
演劇	ケアポート劇団 「日々、是、甘露なり」	40	



 平成30年度 ケアポート連携による高齢者ケアの推進
 スリポートゆめ・ひと・つながり塾
 スリーポート事業報告会
日本財団「ケアポート整備事業」
事業評価の概要
 2018年12月3日
 公共価値創造研究所
 代表 岩 淵 祐 二

Institute of Creating Public Value

目 次

1. 事業の概要と評価結果
2. 評価のポイント
 - ①モデル性
 - ②地域開放
 - ③地域づくり
3. 総括、課題と提案
4. スリーポートの取り組み

Institute of Creating Public Value

1-1. 事業の概要

事業目的：今後の高齢社会において**模範**となる**高齢者福祉施設**のモデル施設を整備し、施設に対する意識啓発を進める

「新しい時代における特別養護老人ホームJ(1990年)」

施設像

- ◇高齢者の**人権を尊重**する施設
- ◇生きがいを感じる**こと**ができる施設
- ◇看護や介護が適切に与えられる施設

施設と地域社会の関係

- ◇地域の**医療・保健・福祉**との連携
- ◇地域に**開かれた施設**
- ◇高齢者福祉施設の**イメージ刷新**
- ◇在宅福祉との**連携**

施設整備のポイント

- ◇全**室個室**が原則
- ◇公私空間の段階構成
- ◇生活単位(小グループ)
- ◇介護ステーション
- ◇機能変化への構造的対応
- ◇高齢者特性への配慮

Institute of Creating Public Value

1-2. 実施主体及び施設概要

ケアポート庄川	ケアポートよしだ	ケアポートみまき
実施主体 社会福祉法人庄川福祉会 (現 社会福祉法人 庄川福祉会)	実施主体 社会福祉法人吉田村福祉会 (現 社会福祉法人 吉田村福祉会)	実施主体 社会福祉法人みまき福祉会 (現 社会福祉法人 みまき福祉会)
所在地 庄川町 (現 新潟県庄川町)	所在地 吉田村 (現 新潟県吉田町)	所在地 北御牧村 (現 新潟県北御牧地区)
開設年 1992年3月	開設年 1994年4月	開設年 1995年4月
主な用途 ・老人保健施設 ・デイサービスセンター ・在宅介護支援センター ・老人福祉センター	主な用途 ・高齢者生活福祉センター ・デイサービスセンター ・在宅介護支援センター ・リフレクシユセンター	主な用途 ・特別養護老人ホーム ・診療所 ・総合相談窓口 ・温泉アクティビセンター

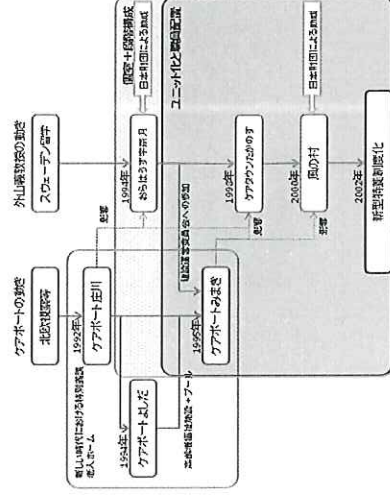
1-3. 評価結果と評価項目

評価結果 90/100点 レベルA(秀逸である)

評価項目

1. モデル性
 - ◇ 全室個室
 - ◇ プールのある高齢者福祉施設
 - ◇ 特養イメージの刷新
2. 地域開放
 - ◇ 医療・保健・福祉の連携
 - ◇ ボランティアの育成と活動の展開
 - ◇ 在宅福祉との連携
3. 地域づくり
 - ◇ まちの核としてのケアポート福祉会の設立
 - ◇ 福祉会の設立
 - ◇ 身体教育医学研究所の展開

2-1-①. 全室個室



2-1-②. プールのある高齢者福祉施設

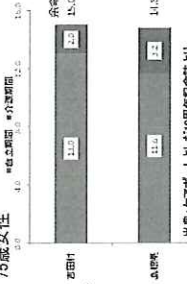
ケアポートよしだ 温泉プール



ケアポートみまき 25mプール

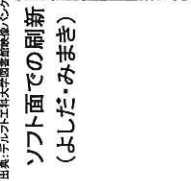


75歳女性



出典: ケアポートよしだ(利用希望者数より)

2-1-③. 特養イメージの刷新



ソフト面での刷新 (よしだ・みまき)

ハード面での刷新 (庄川)

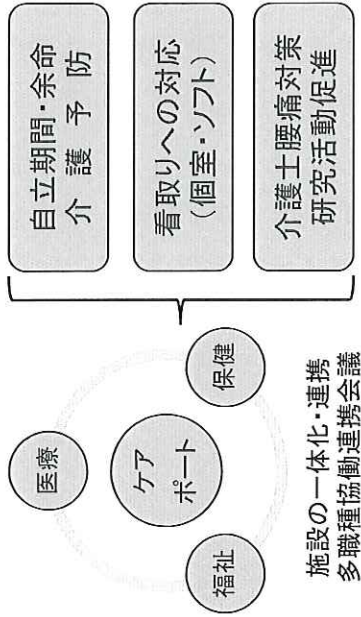
デンマークのナーシングホーム Nybodergarden のイメージを再現



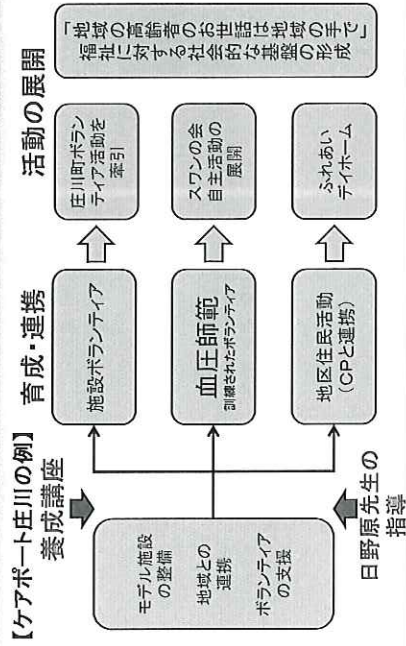
出典: スポーツ今東西

出典: 豊南市

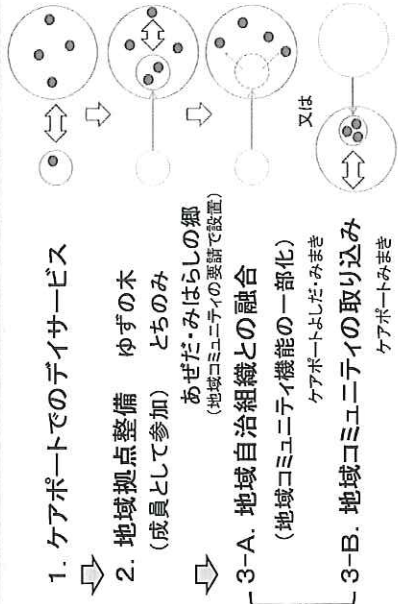
2-2-1. 医療・保健・福祉の連携



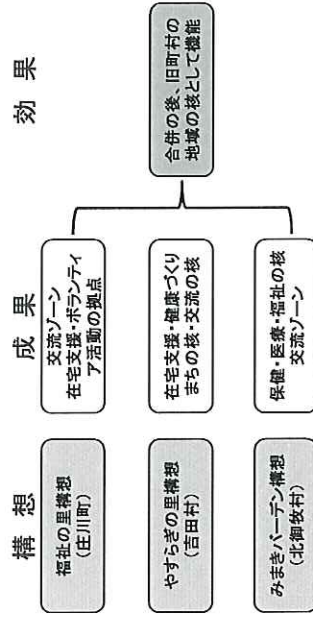
2-2-2. ボランティア育成と活動の展開



2-2-3. 在宅福祉との連携



2-3-1. まちの核としてのケアポータル



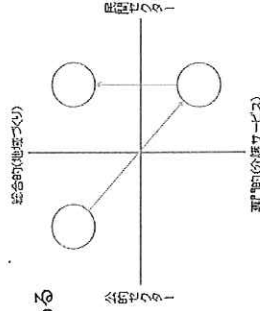
2-3-2 福祉会の設立

福祉会の特色

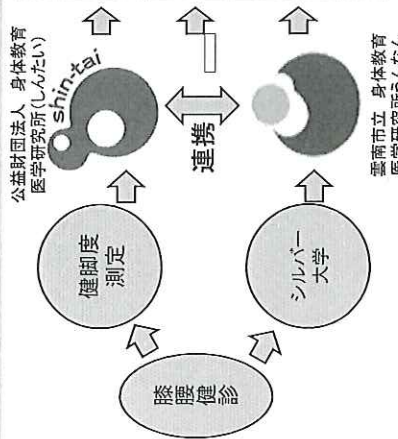
- ◇自治体職員や社会福祉協議会職員で構成
- ◇建設運営委員と直接議論を交わす
- ◇施設の立ち上げから運営まで携わる
- ◇福祉だけにとらわれない視点
- ◇企画力・まちづくりのセンスがある
- ◇住民からの支持・信頼

位置づけの変化

- ◇創設時：唯一の施設
 - ◇合併時：施設のひとつ
 - ◇現在：地域を牽引する施設
- (将来)



2-3-3 身体教育医学研究所の展開



公益財団法人 身体教育医学研究所(しんたい)

連携

健康度測定

膝腰健診

シルバールバ大学

介護予防推進

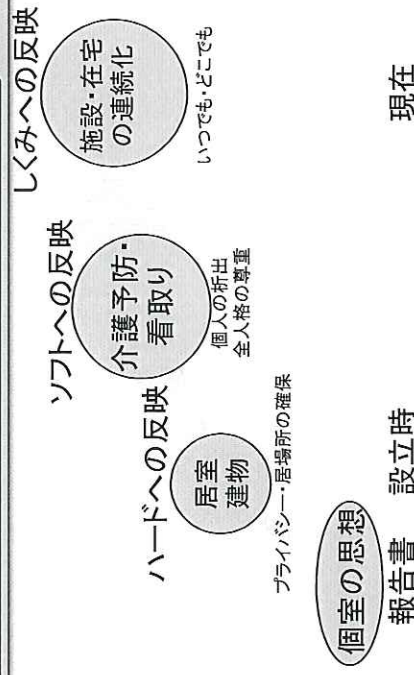
運動指導員養成

シニアセンター機能

千葉県立 身体教育医学研究所うなんなん

出身:上(東田町長ブログ) 中,下(新聞等)

3-1 総括(ケアポートの歩み)



個室の思想

報告書 設立時

ハードへの反映

居室 建物

プライベート・居場所の確保

ソフトへの反映

介護予防・看取り

個人の祈出 全人格の尊重

しくみへの反映

施設・在宅の連続化

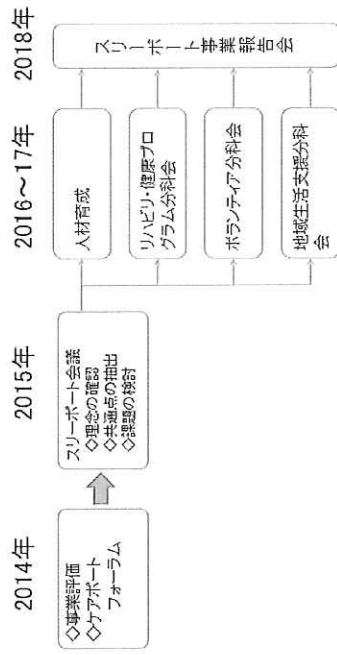
いつでもどこでも

現在

3-2 課題と提案

1. ケアポートの課題
 - ◇個室個室モデルとしての再情報発信
 - ◇少子高齢化・人口減少社会における福祉のあり方
 - ◇地域福祉の新たなシステムの構築
 - ◇次代の育成
2. ケアポートへの提案
 - ◇3つの施設間の相互交流
 - ◇ケアポートのブランド化

4. スリーポートの取り組み



人材育成分科会

スリーポートゆめ・ひと・つながり塾

社会福祉法人みまき福祉会
青木 豊英・宮沢 洋平

スリーポート連携事業

「多機能性の整理と新しい在宅支援サービスの検討プロジェクト」

【プロジェクトメンバー】

ケアポートよしだ&ケアポート庄川 & ケアポートみまき
日本財団

目的（何のために）

日本財団の地域福祉創造プロジェクトのケアポート事業で建設された3つのケアポート（ケアポート庄川、ケアポートよしだ、ケアポートみまき）携し「スリーポートゆめ・ひと・つながり塾」を開講して、「住み慣れた土地で安心して、生きがいと尊厳を持って暮らす」ために、様々な視点から、各分科会にて今ある課題を共有し新たなケアポートモデルの策定・発信をしていく。

目標（何をするのか）

多機能性の整理と新しい在宅支援サービスの検討を行う。

事業計画(目標を目指した活動)

各ケアポートの多機能性の整理と先進事例視察を通して、資源の少ない中山間地で、在宅(家)で暮らし続けるための様々なサービスを提供する多機能拠点について考察するとともに、新しい在宅支援サービス等の検討を行い、現代の課題に対応した新たなケアポートモデルの提言をまとめる。

プロジェクトの経過①

1. 第1回視察調査(よしだ・山口)
 - ①2016年9月15日 ケアポートよしだ 視察調査
* 実践報告「ケアポートよしだの当初理念、20年の実践、評価、今後の課題等」、現地視察、ヒアリング調査、意見交換
 - ②2016年9月16日 夢のみずうみ村 視察調査(フィールドワーク)
* 現地視察、ヒアリング調査
 - ③2016年9月17日 全体振り返り、意見交換

プロジェクトの経過②

2. 第2回視察調査(デンマークフィールドワーク・高齢者ケア視察研修)
 - ①2016年10月19日 「オアスタッド プライエセンター」「ローゼンボークセンター」
* 現地視察、ヒアリング調査、意見交換
 - ②2016年10月19日 「デン・ブリヴェーコック」「シニアセンター・バツケゴーン」
* 現地視察、ヒアリング調査、意見交換
 - ③2016年10月20日 全体振り返り、意見交換

プロジェクトの経過③

3. 第3回視察調査(庄川・富山&みまき・長野)
 - ①2016年11月17日 ケアポート庄川 視察調査
* 実践報告「ケアポート庄川の当初理念、20年実践、評価、今後の課題等」、現地視察、ヒアリング調査、意見交換
 - ②2016年11月18日 富山式子イ 視察調査(フィールドワーク)
* 現地視察、ヒアリング調査
 - ③2016年11月18日 長野県泰阜村 実践報告及び調査
* 実践報告「泰阜村での取り組み、実践、評価、課題等」、ヒアリング調査、意見交換
 - ④2016年11月19日 ケアポートみまき 視察調査
* 実践報告「ケアポート庄川の当初理念、20年実践、評価、今後の課題等」、現地視察、ヒアリング調査、意見交換
 - ⑤2016年11月19日 ワークショップ「今回のプロジェクトを通しての気づき」
* 全体振り返り、意見交換

プロジェクトの経過④

4. 第4回部会(東京・日本財団)

①2017年3月6日 グループワーク「新しい在宅支援サービス等の検討」

* 検討とまとめ

夢のみずうみ村

建物内の様子



夢のみずうみ村

建物内の様子



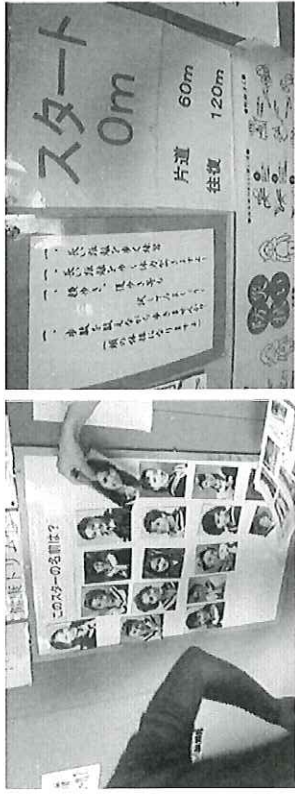
夢のみずうみ村

様々な仕掛け



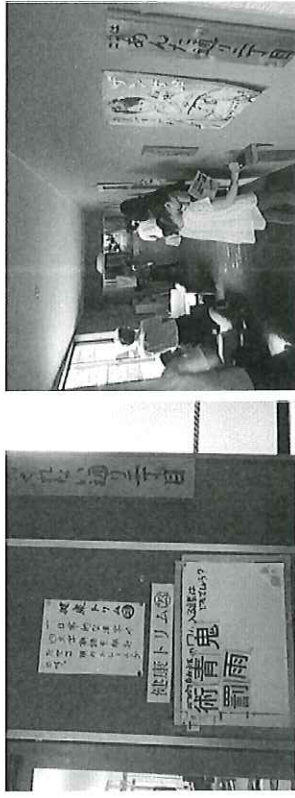
夢のみずうみ村

様々な仕掛け



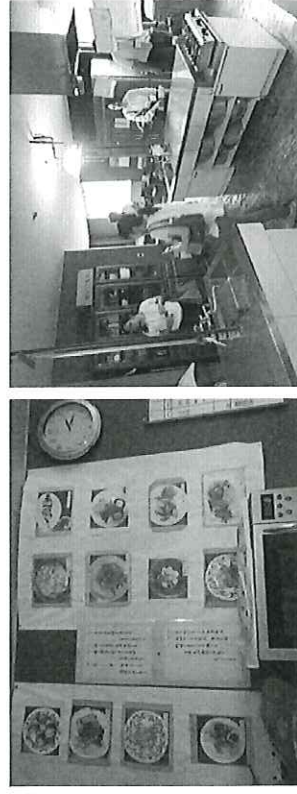
夢のみずうみ村

様々な仕掛け



夢のみずうみ村

料理教室



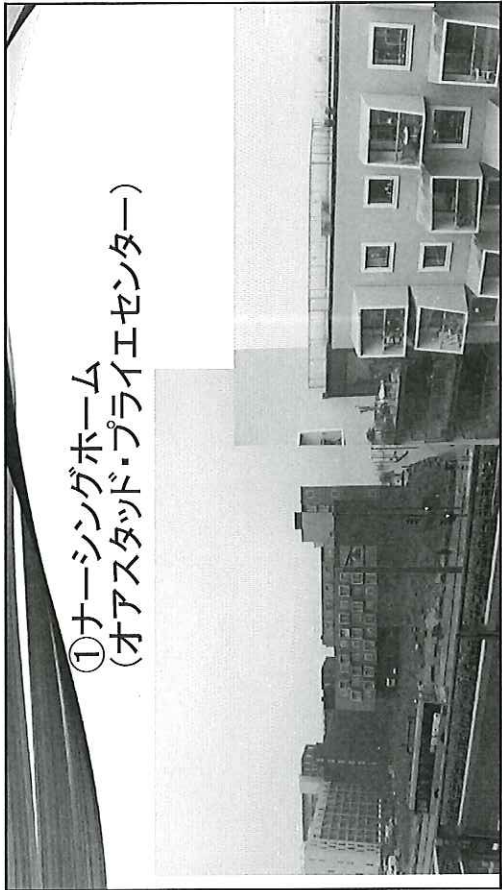
「夢のみずうみ村は、リハビリをする施設です。」と目的が明示されている。さらに“リハビリ理念”としてこの施設でのリハビリを「生活できる能力を確認されること」で「生きるエネルギーを再生産すること」と揚げられている。

生きるためのリハビリの目的や意義が、

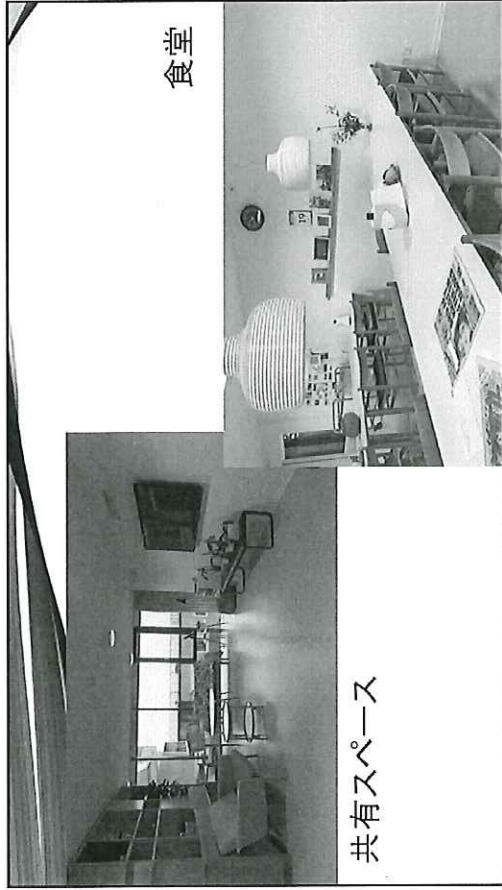
本人に伝わるよう言語化されている

“福祉先進国”デンマーク

デンマーク高齢者ケア視察研修



①ナーシングホーム
(オアシスタッド・プライエセンター)



共有スペース

食堂

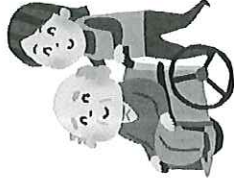
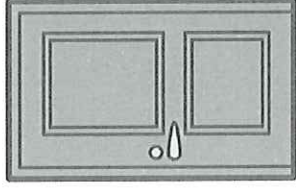


ケアポート連携による高齢者ケアの推進
スリーポートゆめ・ひと・つながり塾

ごちやまぜ！ リハビリリーフレット

ケアポートみまき
理学療法士
大塚琢也

車いすを押し歩いて
ドアが閉まっていたら…

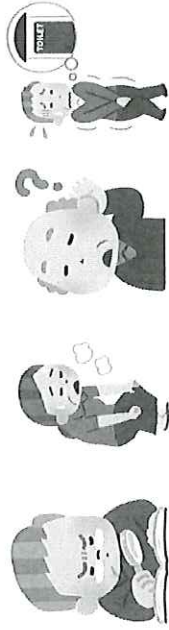


つい開けちゃいますよね～

ダメなんです…

その方の出来ることを奪ってしまうんです。

使わない筋肉は衰えてしまう…



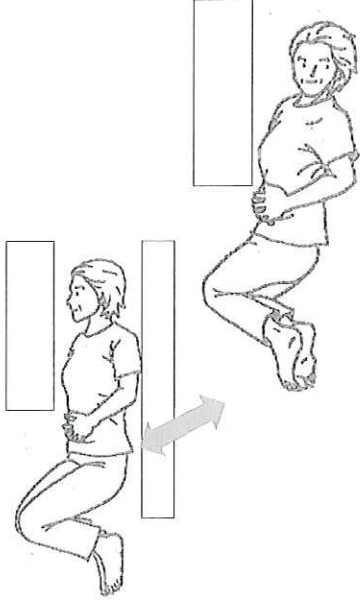
リハビリ運動リーフレット



リハビリ運動50メニュー

50メニュー		50メニュー									
A	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11
B	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	B11
C	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11
D	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11
E	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	E10	E11
F	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
G	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10	G11
H	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
I	I1	I2	I3	I4	I5	I6	I7	I8	I9	I10	I11
J	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10	J11
K	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11
L	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11
M	M1	M2	M3	M4	M5	M6	M7	M8	M9	M10	M11
N	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11
O	O1	O2	O3	O4	O5	O6	O7	O8	O9	O10	O11
P	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
Q	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
R	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
S	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	S11
T	T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	T10	T11
U	U1	U2	U3	U4	U5	U6	U7	U8	U9	U10	U11
V	V1	V2	V3	V4	V5	V6	V7	V8	V9	V10	V11
W	W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11
X	X1	X2	X3	X4	X5	X6	X7	X8	X9	X10	X11
Y	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10	Y11
Z	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7	Z8	Z9	Z10	Z11

金魚運動(脊柱ひねり)



膝と膝の距離



20~25cm

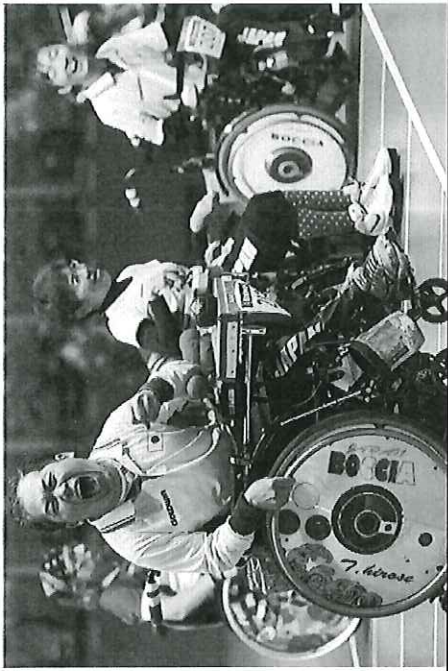
以下だと介護負担の増大

金魚運動(脊柱ひねり)



午前と午後、毎日、6か月間に渡って積極的に身体を動かしてあげる。

2016 リオ・パラリンピック ボッチャ



リハビリ運動50メニュー

50 menu

DQ-SCHUBSTUHL										GRUPPESTUHL									
A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10
1. 両足踏み	2. 片足踏み	3. 両足踏み	4. 片足踏み	5. 両足踏み	6. 片足踏み	7. 両足踏み	8. 片足踏み	9. 両足踏み	10. 片足踏み	11. 両足踏み	12. 片足踏み	13. 両足踏み	14. 片足踏み	15. 両足踏み	16. 片足踏み	17. 両足踏み	18. 片足踏み	19. 両足踏み	20. 片足踏み
21. 両足踏み	22. 片足踏み	23. 両足踏み	24. 片足踏み	25. 両足踏み	26. 片足踏み	27. 両足踏み	28. 片足踏み	29. 両足踏み	30. 片足踏み	31. 両足踏み	32. 片足踏み	33. 両足踏み	34. 片足踏み	35. 両足踏み	36. 片足踏み	37. 両足踏み	38. 片足踏み	39. 両足踏み	40. 片足踏み
41. 両足踏み	42. 片足踏み	43. 両足踏み	44. 片足踏み	45. 両足踏み	46. 片足踏み	47. 両足踏み	48. 片足踏み	49. 両足踏み	50. 片足踏み	51. 両足踏み	52. 片足踏み	53. 両足踏み	54. 片足踏み	55. 両足踏み	56. 片足踏み	57. 両足踏み	58. 片足踏み	59. 両足踏み	60. 片足踏み



金魚運動(春柱ひねり)

長野県ご当地体操

生き活きボッチャ体操

東御市 ケアポートみまきボッチャクラブ

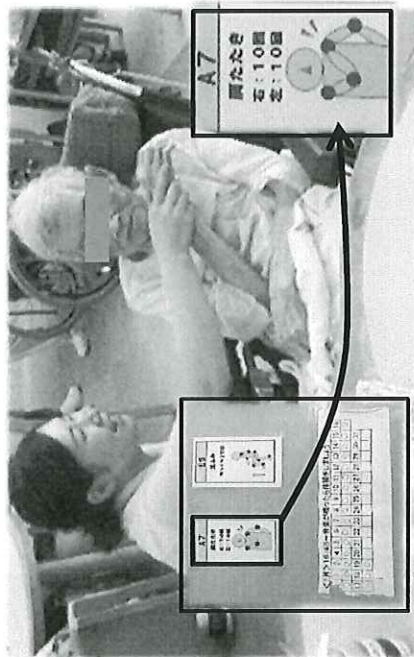
H28年度しあわせ信州ご当地体操コンテスト

優秀賞

トレーニングマシンの導入



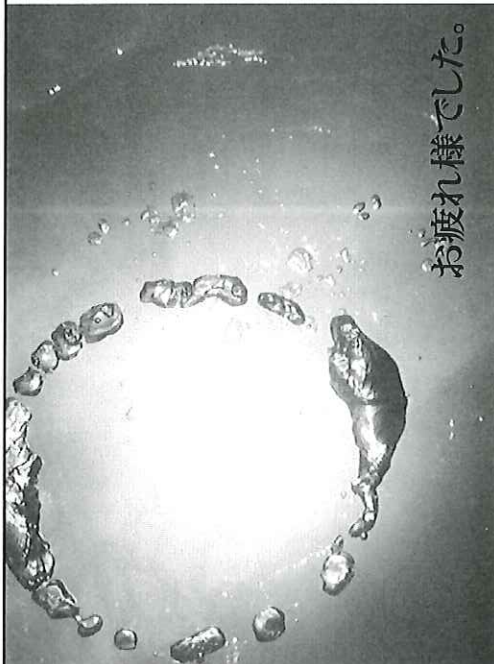
肩の運動



集まりの場...ケアポート



お疲れ様でした。



スリーポート連携事業 「ゆめ・ひと・つながり塾」
(日本財団助成事業)

ボランティア分科会

ケアポート庄川 (所管)
ケアポートよしだ
ケアポートみまき

利用者にとって・・・

- ・QOLの向上
- ・社会参加



施設にとって・・・

- ・開かれた施設
- ・施設や利用者の正しい理解
- ・サービスの拡充

施設がボランティアを受け入れる



ボランティア

にとって・・・

- ・社会貢献
- ・自己実現 (達成感・成長・生きがい)



地域にとって・・・

- ・社会資源
- ・生涯学習



ケアポート庄川と地域ボランティア

- 昭和52年 県の「ボランティア養成講座」を婦人会中心に多く受講
⇒庄川町内に高齢者福祉施設の必要性の意識が高まる
- 昭和61年 県知事との懇談会において直接「福祉施設建設」を要望
(住民による施設招致)
- 平成元年 日野原先生を中心とした専門委員会発足
⇒「地域ボランティアで施設を支える」
⇒町をあげてボランティアを広め研修に取り組み
社会福祉総合施設「ケアポート庄川」運営開始
- 平成4年 「ケアポート庄川支援ボランティアの会」発足
平成5年 (ボランティアによる組織)

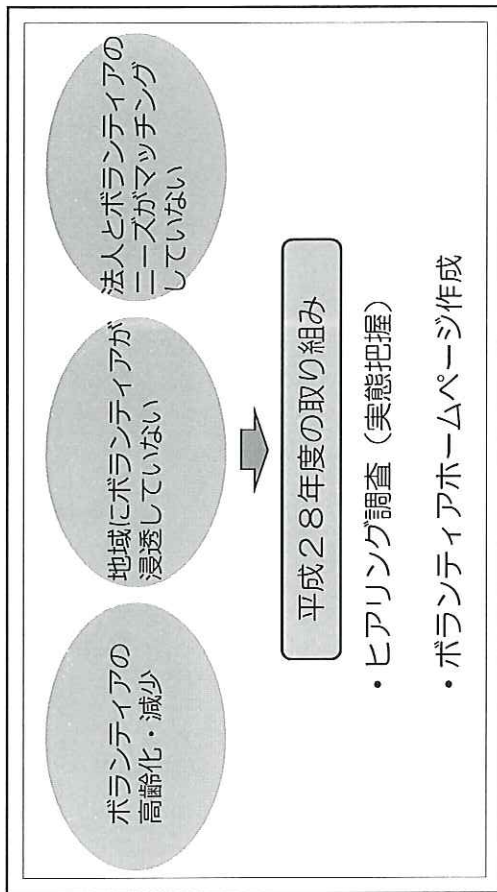
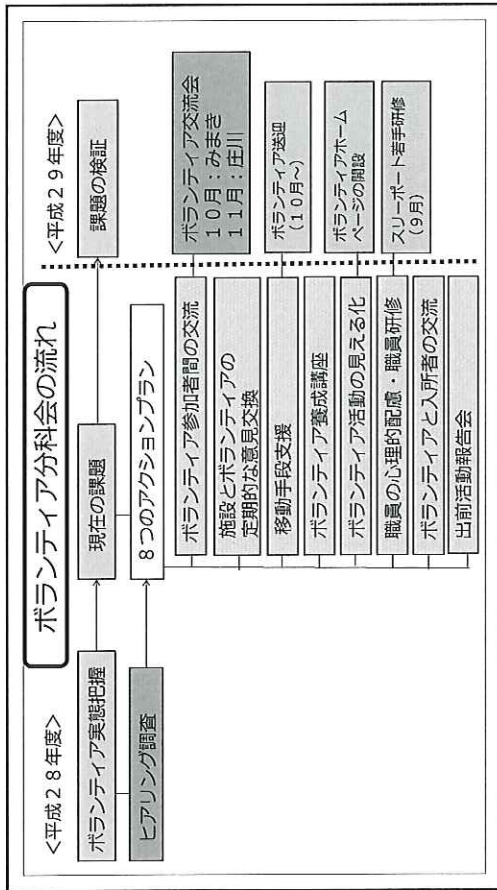
ケアポート庄川のボランティア活動状況

【平成29年度 ボランティア活動人数 (延べ人数)】

＜グループ＞	50団体	1,988名
＜個人＞		284名
合計		2,272名

【受け入れ体制】

- ・専任の窓口
(ボランティアコーディネーター配置)
- ・ボランティア室の設置
- ・ボランティア専用電話窓口
- ・ボランティアホームページ



ボランティア活動の参加促進・活性化に関するヒアリング調査

調査日時：平成28年11月1日 13:30～16:00
 調査方法：ワールドカフェ方式によるグループワーク
 調査場所：ケアポート庄川研修室
 参加者：ケアポート庄川におけるボランティア活動経験者
 ワークショップのテーマ：
 ①ボランティア活動参加者に共通する信念の把握について
 ②ボランティア活動参加者が現在の活動を続けるための課題に
 ついて
 ③ボランティア活動の推進のために（福祉会へ）求められること・
 必要なこと



ボランティア活動支援のための8つのアクションプラン

- ①ボランティア参加者間の交流の活性化
- ②ケアポート庄川とボランティア参加者間の定期的な意見交換場の設置
- ③デマンドバス等によるボランティア活動参加者の移動手段支援
- ④ボランティア活動の見える化（新聞・広告・便り・インターネットなど）
- ⑤ボランティア養成講座の開設による人的資源の発掘
- ⑥ボランティア活動参加者への福祉会職員の心理的配慮、そのための職員研修
- ⑦ボランティア活動参加者と入所者との交流の活性化
- ⑧ボランティア活動参加者の募集に向けての地域における出前活動報告会の検討

ヒアリング調査報告会

日時：平成29年2月9日 13:00～15:30
場所：ケアポート庄川AVルーム
参加者：ヒアリング調査参加者



平成28年度の取り組みからの提案

1. 可視化
紙媒体でボランティア募集や活動報告などを発行し、地域住民や各種団体へ配布。また、ホームページでも情報発信をする。
2. 移動手段
デマンドバスや送迎ボランティア
3. 養成講座
ボランティアだけに特化しない「〇〇講座・大学」を開講。
4. ケアポートのブランド化
ボランティアへの還元・特典・会員証の発行
5. ボランティア交流 ⇒ 平成29年度に実施
ボランティア間や職員との交流の機会をもつ。

ボランティア交流会

目的：ボランティアの方々が他の地域での異なる取り組みを知り、また日頃のボランティア活動の課題や悩みを共有することで、今後の活動に活かしていただく。

内容：研修

- ①講演
- ②グループワーク
- ③体験
視察・懇親会



<第1回>

日程：平成29年10月24～25日

場所：ケアポートみまき

参加者：ケアポートみまき ボランティア10名 職員10名
ケアポート庄川 ボランティア10名 職員5名
ケアポートよしだ 職員2名

<第2回>

日程：平成29年11月28～29日

場所：ケアポート庄川

参加者：ケアポートみまき ボランティア9名 職員5名
ケアポート庄川 ボランティア9名 職員6名
ケアポートよしだ 職員2名

① 講演

10月・11月
『100歳人生、健康の秘訣』



<6つのポイント>

- ① 笑顔 (心理的ゆとり)
- ② 前向きな生き方 (精神的な豊かさ)
- ③ つながり (人間関係)
- ④ 楽あり苦あり『ありがとうの心』
- ⑤ 他人への貢献 (ボランティア活動)
- ⑥ 生きがい (趣味など)

11月

『砺波市の取り組みについて』

- ・ボランティアセンターの役割
 - ・砺波市のポイント制度について
- レッツ！ボランティアとなみ
シニア元気あつぽポイント



レッツ！ボランティアとなみ
砺波市内での活動
1回につき1枚の
シール
入浴券や道の駅や
作業所の製品の
500円券などに
使える

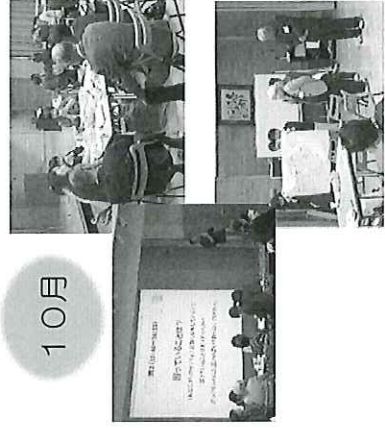


シニア元気
あつぽポイント
砺波市在住の65歳
以上で社協での登録
が必要
・1回につき1個の
ポイント
・1P=100円
・1年で6000円まで

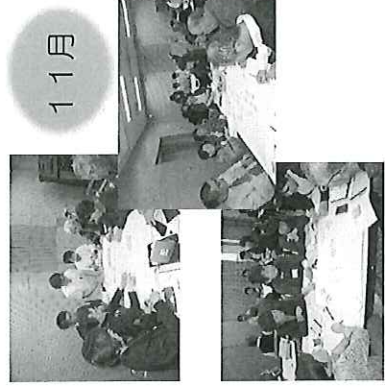


② グループワーク

10月



11月



グループワークのテーマ

<10月>

- ・ボランティアを始めたきっかけ
- ・ボランティアをして困っていること
- ・ボランティア活動を活性化するには？

<11月>

- ・ボランティアをしていて楽しかったこと・良かったこと
→ボランティアの長さ
- ・ボランティア活動を続けるため仕掛け



<ボランティア活動の 活性化に何か必要か？>

- ・ポイント制度
 - ・声かけ・仲間づくり
 - ・楽しみ
 - ・情報発信
 - ・きっかけづくり
 - ・施設側の対応
- など

<ボランティアの長さ>

- ・人とのつながりができた
 - ・学ぶことができる
 - ・健康でいられる
- など

<ボランティアを続けるための 仕掛け>

- ・交流会→楽しみ・信頼関係
- ・ボランティアの窓口
- ・施設側の気持ちの良い対応
- ・ポイント制→ためる楽しみ
- ・活動への補助
- ・ボランティア情報の発信
- ・学びの場



- ・笑顔になれる
- ・共感・感謝・貢献

③ ボランティア体験

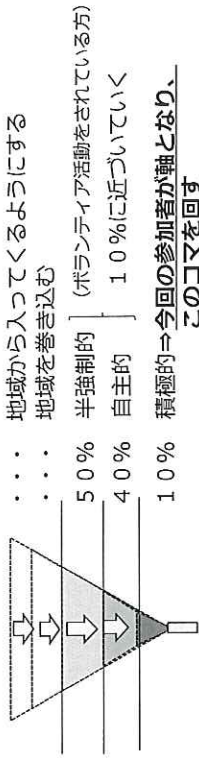
シャツ交換



喫茶



平成29年度の取り組みからの提案

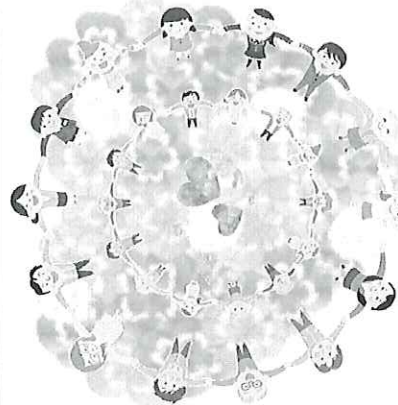


ボランティアの高まった意識を一過性にならないように
広め、継続的な動きかけをする

目指す取り組み

それぞれのケアポートに合った取り組みへ

- <ケアポート庄川>
- ①ボランティア委員会の立ち上げ
 - ②ボランティア活動の発信の拡充
(ボランティアの広報紙や施設行事での活動紹介など)
 - ③ボランティアと職員との交流会の開催
 - ④ボランティア・施設ニーズの検証
 - ⑤ボランティアを通じた地域交流の検討
- <ケアポートみまき>
- ①ボランティアセンターの設置
(在宅総合支援センター内・専任職員配置)
 - ②ボランティア委員会(推進プロジェクト)の立ち上げ
 - ・ボランティアの在り方研究会
 - ・ボランティア通信の発行
 - ・ボランティアネットワークの確立(組織)
- <ケアポートよしだ>
- 地域生活支援分科会の中で、シニア大学構想案について検討中。



ご清聴ありがとうございました

ケアポートみまきの 取り組み

平成30年12月3日
在宅総合支援センターみまきの家
センター長 西澤 唯治

平成30年度の取り組み

- 1、ボランティアセンターの開設(在宅総合支援センター内)
- 2、ボランティア委員会の設置
- 3、ボランティアネットワーク(組織)の立ち上げ
- 4、情報発信(広報紙・ボランティア通信・ホームページ等)
- 5、ボランティア養成講座の検討

ボランティアセンターの開設

- ①専任のボランティアコーディネーターを配置
- ②各事業所のボランティア活動の調整・・・依頼、日程調整等
- ③ボランティア登録の推進・・・新たなボランティアの発掘
- ④学生ボランティアへの情報発信・・・ニーズ、イベント情報の発信

ボランティア委員会

- 毎月第2水曜日に開催
- 委員構成:ボランティアセンター・各事業所の主任・相談員・法人本部
- 活動内容
 - ①ボランティアニーズの把握とマッチング
 - ②ボランティアネットワークの確立(組織化)
 - ③ボランティア活動の在り方研究・・・有償、無償、ポイント制等
 - ④受け入れ態勢の整備・・・勉強会の開催・受入れ要綱、しおり

ボランティア組織の立ち上げ

- 当法人でのボランティア活動時にボランティア登録の依頼
- 団体・・・既存団体の活動に捉われない活動の模索
- 個人ボランティアの登録促進
- 学生ボランティア(近隣の高校、短大、大学)との連携



情報発信の検討

- 広報誌への掲載・・・活動の様子、ニーズやイベントの情報、募集
- ボランティア通信の発行
- ホームページ(法人)内にボランティア枠を設ける
- 学校等(小・中・高・専門・大学)への情報提供
- 東御市社会福祉協議会との連携



ボランティア養成講座の検討

- シニア大学構想の検討・・・地域社会貢献活動の中で、生き甲斐、遣り甲斐、楽しみを見つけて健康寿命を延ばす。
- 地域ボランティア活動実践講座の検討・・・ゆめ、ひと、つながり隊等
- 施設内ボランティア活動実践講座の検討・・・どんなことが出来るの？
- ボランティア活動への職員の参加促進(自らボランティア活動をする事での気付き)

↓
地域行事や社会貢献活動等に参加



ご静聴有り難うございました



～地域で暮らしてつづけることを支援する～

地域生活支援分科会



「住み慣れた地域で安心して、
生きがいと尊厳を持って暮らすために」

今ある課題とは・・・
安心して住み続けられる地域とは・・・
それを支援する私たちは・・・

この分科会は
それを考えることから始まりました

「住み慣れた地域で安心して、
生きがいと尊厳を持って暮らすために」

20年評価で気がついた！

- ◇高齢者の人権を尊重する施設
- ◇生きがいを感じるができる施設
- ◇看護や介護が適切に提供できる施設

「この施設像から、私達は離れてしまっ
ているのでは...?」

「住み慣れた地域で安心して、
生きがいと尊厳を持って暮らすために」

訪問看護「本人が話せないので、
最期どうしたいかわからない」

ケアマネ「担当になった時は、状態
が悪かった。もっと早く誰かが気が
つけば、今の生活が続けられたの
に。」

施設「本人から意向は取りにくい。ど
んな人で今何をしたいか分からないし、
わかっても忙しくて対応は難しいかも

ケアマネ「家族の意向にかたよって
しまう。本人の気持ちがちやんと聞
けてない」

どうすれば
いいのだろう

訪問介護「家にいたい。いつも
言っておられたけど、施設入所が
決まった。まだここで暮せると思
うのに」

健康運動指導士

「久しく会わないと思ったら要介
護になっておられた。あんなに運
動好きだったし、楽しい人だった
ことを、他部署にも伝えたい。」

通所「日々、業務をこなすので
精一杯。楽しく過ごしていただ
く事は心がけている」

「住み慣れた地域で安心して
生きがいと尊厳を持って暮すために」

望む暮らしを支えるために大事な事

- ・ 『尊厳』 = 『自己決定』
- ・ 『自己決定』は 『利用者主体』 『自立支援』

➡ **なのに、本人の気持ちや
意向を聴いていない。**

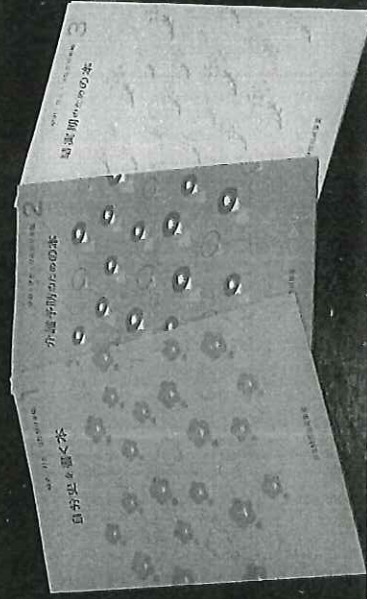
！ 自己決定を支援するツールをつくらう

「2016年度 分科会の取り組み

【ワーキング、分科会4回開催】

自己決定を支援するツールとは・・・

- ◇ 終末期の意向を残すなら、エンディングノートがあるけれど、そうじゃない。
- ◇ これまでの自分を振り返り、最期までをどうするか考える。だからこそ、今どうするべきかを考える。



『ゆめ・ひと・つながり手帳』

自己決定支援ツールとして

『ゆめ・ひと・つながり手帳』の作成

3部作+資料編（自分でおこなう運動メニュー）

- ◇ 自分史 ~これまでの自分の生き方を振り返る
- ◇ 介護予防~早期より、介護予防にとりくみ健康づくりの意識づけをおこなう
- ◇ 結末期~介護が必要になっても重度化予防を図る。意志が伝えられなくなっても、自分らしくあるために介護や終末期の意向を書き残す。それは大切な人も守る。

「地域の方々へ、アプローチしよう」

- 健康づくりから、最後まで自分身をプロデュースできるよう自己決定を支援しよう。
- その意向を伝える地域の仕組みづくりを地域と一緒につくるう。

2017年度 分科会の取り組み

【ワーキング、分科会5回開催】

(具体的な内容)

- ◇地域への啓発
一般公開講座 “地域とともに考える” よしだ、みまきで開催
- ◇職員育成
職員向け講義 “自律支援、自立支援を学ぶ”
“手帳を通じて自己決定支援の重要性を学ぶ”
- ◇地域の仕組みづくり
聞き書き甲子園の聴講
- ◇手帳の効果検証

見えてきた新たな課題

- ◇手帳はいいものだし、絶対必要。でも...
 - ・書くのはめんどくさい
 - ・手帳をひとりで書くのは難しい
- ◇本人の意向は聞けても、ケアまでつながらない
 - ・「手帳に本人の意向が書かれていればいいのに！」と職員は言うけれど、書こうとしない。
 - ・本人主体のケアになっていない。

見えてきた新たな課題対して

- ・手帳内容を変更
- ・手帳を書くことをサポートしてくれる人を養成
- ・利用者主体のケアを目指して人材育成のカリキュラムを検討

2018年度 地域生活支援分科会を2つの事業に

・事業1 「ゆめ・ひと・つながり隊」の養成講座

内容：自分で書く書き方講座

自分で書くことが出来ない方をサポートする「ゆめ・ひと・つながり隊」の養成

日程：4日間

会場：よしだ、みまさ

対象：法人職員、つながり隊候補の地域支援者

◎講座修了者には、終了証書交付

2018年度 地域生活支援分科会を2つの事業に

・事業2 自己決定支援をテーマとした

「職員教育プログラム」の検討

内容：カリキュラム作成

・その地域を知る“地元学”を取り入れ、その人が暮らしてきた生活を理解する。

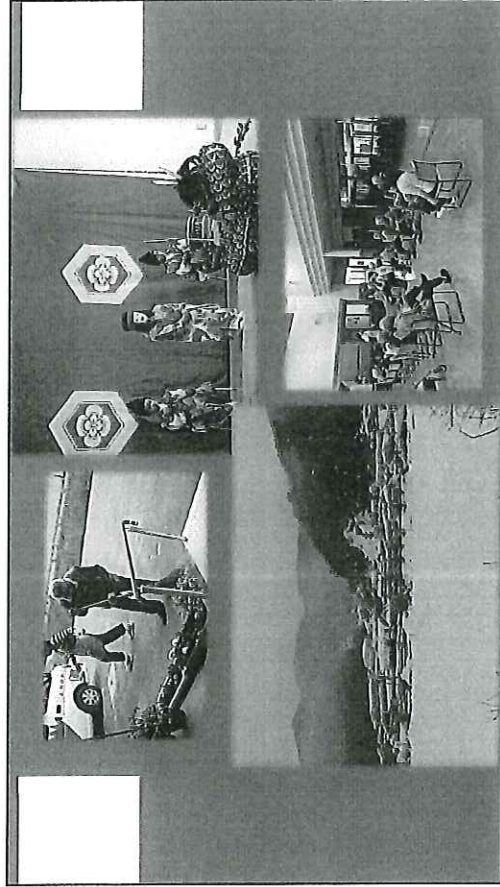
・本人の意向に基づくアセスメントができる

・本人主体で自立支援を目指したケアプラン、ケア

計画が作れるようになる

・実際に、ケアが提供できる。

○気づいて変わる。行動実行に移せる職員育成を目指す

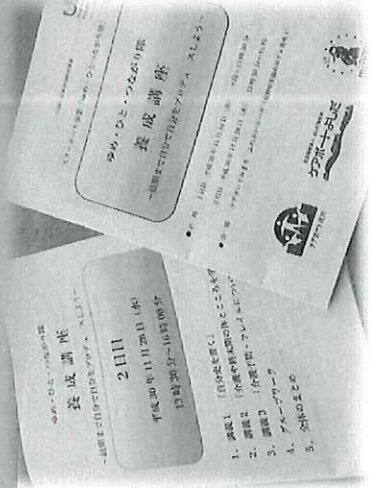


地域生活支援分科会

ケアポートみまきでの取組み

平成30年12月3日
社会福祉法人みまき福祉会
佐藤 夏美・武田 加代子

ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座



ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座

* 目的

その人がその人らしく、元気なうちから最後まで、自己決定でき尊厳をもって暮らし続ける事を実現するため、自分で自分をプロデュースします。

その意向を伝える「ゆめ・ひと・つながり手帳」を用いて、

地域の方々や福祉の専門職によって支援できる

「ゆめ・ひと・つながり隊」の養成講座を開講します。

『大切なあなたの人生と物語を綴りませんか・・・』

ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座

* 第1回 11月16日(金)

「その人が生きてきた背景・時代・地域を知る」

共存の森ネットワーク 吉野奈保子 氏

健康大学の皆さんからお話を聞く

* 第2回 11月28日(水)

手帳について学ぶ

1回目のインタビューをもとに、手帳に記入してみる

ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座
—1日目—



ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座
—1日目—



ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座
—2日目—



ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座
—1日目—



ゆめ・ひと・つながり隊 養成講座
-2日目-



これからの取り組み

- * 手帳を活用し、最後まで自分をプロデュースすることへの支援。
- * 在宅での支援から施設への支援への引継ぎ
- * 大切にしていきたい想いを受け継ぎ、ケアへ活かしていく

スリーポットゆめ・ひと・つながり塾

「支え支えられ、より良く生きる
地域づくり」を目指して

みまき福祉会のこれからの取り組み



社会福祉法人みまき福祉会
特義主任 丸山明日香



いつまでも健やかにかいきいきと安心して暮らし続けたい
その願いをかなえる核となります。

1. 医療・福祉の専門職ができること

・連携を図り「最期までその人らしく生きること」を支える。

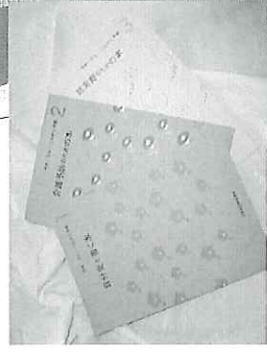
2. 地域ができること

・ご近所との付き合いを継続する。
・まわりの変化をご近所や民生委員へ繋げること。

医療・福祉ができること

○ 住み慣れた地域での暮らしを支えるために
・ご本人の自己決定を大切に

- ① 聞く力を養う
- ② 忠実に書き残す
⇒「聞く・書く」の重要性
⇒「共有」の必要性
⇒「ケアプラン」へ反映する
⇒「個別プラン」としての根拠



みまき福祉会での活動(現状)

○ 尊厳ある暮らしを支えるために

- ・リハビリ・健康モデル
- ① リハビリ運動の推進
- ② 栄養などの指導
⇒「介護予防事業」の推進
⇒「聞き書きインタビュー」の実施



リハビリ運動50メニュー

地域でできること

- 地域での支えあい
 - ・思いやり、お付き合いの継続
 - ① 向こう三軒両隣の回復
 - ② 声かけによる支えあい
 - ⇒「自発的な活動」の推進
 - ⇒「ボランティア」の養成

地域での活動(現状)

- 地域での困りごと
 - ・認知症に対する意識を高め、理解する
 - ① 地域で支えることが本来にできるのか？
 - ② どうすれば地域で暮らし続けられるのか？
 - ⇒「認知症サポーター」の養成
 - ⇒「認知症初期集中支援チーム」の設置(行政)

これからの取り組み

- ご利用者本位のサービスに向け
 - ・その人を知る、地域を知る、生きがいを知る
 - ① 自分史を振り返る
 - ② これからの生き方を描く
 - ③ そのために何が必要かを考える
 - ⇒「3つの手帳」の作成(ゆめ・ひと・つながり手帳)

実践活動として

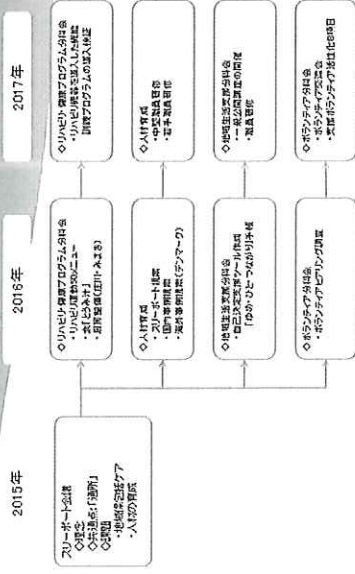
- 「手帳」を活用し、繋いでいく
 - ・その人の想いを「個別計画」に活かす
 - ① 地域包括ケアのモデルとして
 - ② ボランティア活動との連携
 - ③ 人材育成プログラムの構築
 - ⇒「在宅」～「施設」～「結実」その人に寄り添うケア

スリーポート事業報告会のまとめ

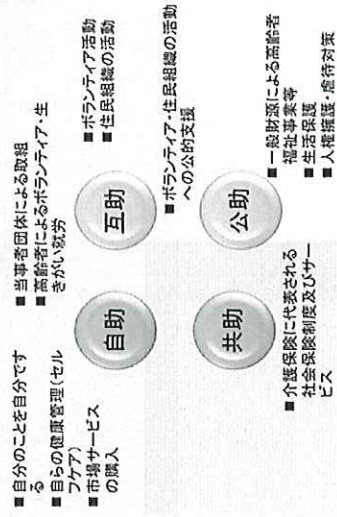
公共価値創造研究所

2018年12月3日

スリーポートの取り組み



参考：地域包括サービスの4つの助



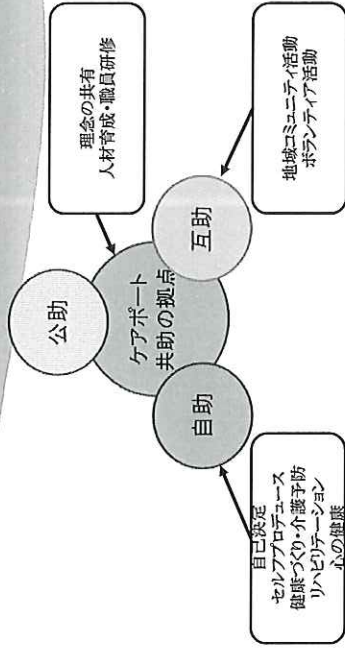
ケアポートの位置づけ



4つの助からみたケアポートの特色

- * 自助：自立した高齢者の育成
- * 互助：地域・ボランティア活動との連携
- * 共助：専門サービスの拠点
- * 公助：公的機関の信頼・連携

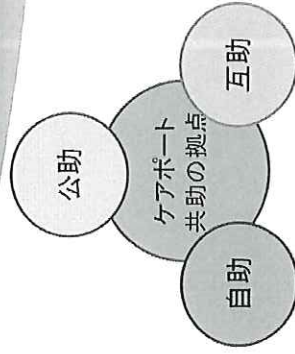
スリーポートの取り組み (H28～29)



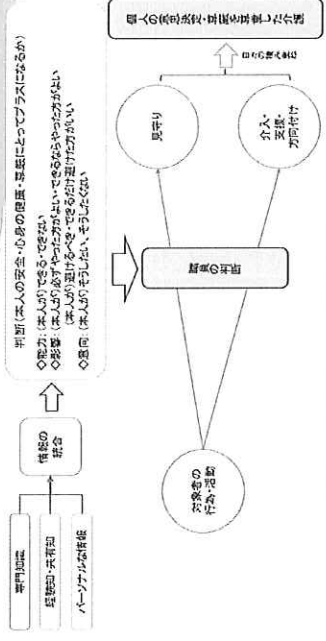
ケアポートの強み

- * 20年前から4つの助を結びつけてきた
⇒ ケアポートごとに異なる経験 (膨大な経験値の共有)
- * 「包括」の意味の違い
☆ 地域包括ケアシステム: サービス機能の包括化
⇒ サービス供給者の視点
☆ ケアポート: 制度によって分断されそうな個人の生活空間・流れ (プロセス) の連続化
⇒ サービス受給者の視点 (地域生活者の統合)
- * 組織・人材・施設・スキル・多様性・信頼

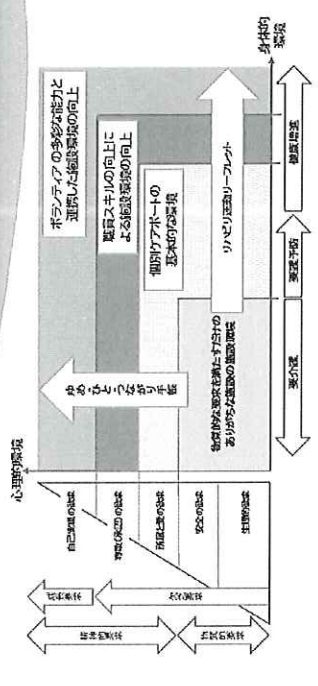
ケアポートの位置づけ



ケアポートブランド その1 判断できる人材の育成



ケアポートブランド その2 身体的・心理的な尊厳を保つ環境



ケアポート劇団 第8回公演 「日々、是、甘露なり」

家族とはなんだろう。

小学校教員の友人が、生徒に“家族団欒”という課題で絵を描かせたところ、ひとりの生徒の絵に興味を抱いたという。それは、家族全員が自分のスマホに夢中になっている絵だったそうだ。なぜ“家族団欒”なのかと尋ねると、「皆でリビングにいるから。」と。

国立社会保障・人口問題研究所の「第5回全国家庭動向調査」で“家族であるために重要なこと”について調査を行っている。「困ったときに助け合う」「お互いありのままにいられる」「精神的な絆がある」という回答が多い。

家族は万能ではない。むしろ、家族ほど厄介で煩わしいものはない。なくてもよいと思うこともあるのだけれど「一緒に暮らしている」時間と場所の共有が血縁を超えて「家族」を作っていくのだろうか？

「日々、是、甘露なり」 皆様のご家族との毎日が、甘露でありますように。

★協力 衣装・ヘアメイク：出浦五月様 曾根原弘美様 池田美代子様
バイオリン：田中美恵子様 ピアノ：掛川百合子様

↓2017年度公演 「父さんが認知症?!」

